

ブドウ(有核・雨除け栽培)の栽培・防除暦(平成30年版)

生産履歴の記帳を進行させていよいよ

農薬散布時は飛散防止に努めましょう

月	旬	生育相	管理作業	対象病虫害	基幹防除	100% 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日 散布量 記入欄
1		休眠期	発芽促進(CX-10)処理, 主枝延長枝への芽傷処理	◎越冬病害, 枝膨病	罹病枝, 巻づる, せん定枝, 落葉は, 園外に持ち出す。 防風垣を整備し, 園内の通風を良くする。			
2								
3	中 下	萌芽直前 萌芽期	ビニル被覆 灌水	◎べと病	キノドーフロアブル 600倍	166cc	○晩腐病の発生があった園 ペファン液剤25 250倍	月 日 日
4	上 中 下	発芽 展葉期 展葉7~8枚	芽かき 新梢誘引 フラスター液剤(500倍)散布	◎べと病, 褐斑病 晩腐病 ◎べと病, 褐斑病 晩腐病	ジマンダイセン水和剤 1,000倍 ジマンダイセン水和剤 1,000倍	100g 100g	※ 病害は十分な散布量(300% 10a以上)で 初期発生を確実に抑える ○アカガネサルハムシ スミチオン水和剤40 1,000倍 ※ ハウス内の湿度が上がらないように換気 を行う(病害発生防止) ※ 灰色かび病は耐性菌発生の恐れがある ため, 同一農薬を連用しない	月 日 日 月 日 日
5	上 中 下	開花前 開花初期 開花直後 落花期 果粒肥大期	新梢誘引 花穂整形 摘粒	◎灰色かび病 ◎灰色かび病 ◎チャノキアザミウマ ハマキムシ類	パスワード顆粒水和剤 1,500倍 フルーツセイバー 1,500倍 オルトラン水和剤 1,500倍 ※花がら落としを十分に行う	66g 66g 66g	○灰色かび病 スッチ顆粒水和剤 3,000倍 ◎チャノキアザミウマ アクトラ顆粒水溶剤 2,000倍	月 日 日 月 日 日
6	上 中 下	果粒肥大期 (大豆粒期) 硬核期	摘粒 袋掛け (できるだけ昼温を下げる) 新梢誘引 ビニル除去	◎晩腐病, 褐斑病 ◎チャノキアザミウマ ◎褐斑病 ◎べと病	袋掛け前 オンリーワンフロアブル 2,000倍 コルト顆粒水和剤 3,000倍 ※袋掛け前には必ずチャノキアザミウマの防 除を行う。 ビニール除去前 オーシャインフロアブル(7日前まで) 2,000倍 ランマンフロアブル(14日前まで) 2,000倍	50cc 33g 50cc 50cc	○コウモリガ ガットサイトS 原液~1.5倍(21日前まで) ※ 幼虫食入期直前~食入初期に主幹部に 塗布する 【袋かけ後】 ○チャノキアザミウマ多発生時 ダントツ水溶剤 4,000倍(前日まで) ディアナWDG 5,000倍(前日まで) モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(14日まで) ○ハマキムシ類 スターマイトフロアブル 2,000倍(14日前まで) ○ハマキムシ類 サムコルフロアブル10 5,000倍(前日まで) ○べと病 イトフインフロアブル 1,000倍(7日前まで) レーバースフロアブル 2,000倍(7日前まで) ○褐斑病 オンリーワンフロアブル 2,000倍(前日まで)	月 日 日 月 日 日
7	上 中 下	果粒軟化期 着色開始	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュホルド-DF 500倍 又はICホルド-48Q 40倍	200g 2.5kg	○ハダニ類 スターマイトフロアブル 2,000倍(14日前まで) ○ハマキムシ類 サムコルフロアブル10 5,000倍(前日まで) ○べと病 イトフインフロアブル 1,000倍(7日前まで) レーバースフロアブル 2,000倍(7日前まで) ○褐斑病 オンリーワンフロアブル 2,000倍(前日まで)	月 日 日
8	上 中 下	成熟期	収穫始め					
9		収穫終わり	収穫終わり	◎べと病 ◎ブドウトラカミキリ	ムッシュホルド-DF 500倍 又はICホルド-48Q 40倍 スミチオン水和剤40 800倍	200g 2.5kg 125g	スミチオン水和剤40の散布は収穫後に限る	月 日 日
10		土づくり	土づくり	◎べと病	ムッシュホルド-DF 500倍 又はICホルド-48Q 40倍	200g 2.5kg	ブドウトラカミキリ発生時は, ダントツ水溶剤 2,000倍を加用する	月 日 日
11		落葉前	堆肥投入 中耕	◎べと病	ムッシュホルド-DF 500倍 又はICホルド-48Q 40倍	200g 2.5kg	※早期落葉を避け, 初霜まで葉を保つ	月 日 日
12		休眠期	排水対策 縮・間伐 整枝・せん定 巻づる除去				○白紋羽病 フロンサイト SC 500倍 50~100% /樹 ※ 灌水器で樹幹から半径1m程度の範囲で 数ヶ所に灌注処理を行う。かぶれに注意	

注1)平成30年1月5日現在の登録内容に基づき記載
注2)農薬使用時期・使用回数等については別紙参照

【施肥基準例】

くみあいぶどう配合1号(7-7-7)使用の場合 (10aあたり)

時 期	生産量			
	0.5t	1.0t	1.2t	
初秋肥	9月下旬	0.4袋	0.7袋	0.8袋
秋 肥	11月中旬	1.7袋	2.8袋	3.4袋
堆 肥	落葉後	完熟牛ふん堆肥500kg		

※収穫後葉色の濃い園では, 初秋肥を施用しない

【植物成長調整剤について】

薬 剤 名	使用目的	使用時期	使用方法	希釈倍数	散布量	本剤の使用回数
CX-10	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	収穫後発芽前	結果母枝に散布又は塗布	10~20倍	150~200% /10a 以内	1回
フラスター液剤 (巨峰・施設栽培)	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開 葉7~11枚 時(開花 始期まで)	散布	500~800倍	100~150% /10a 以内	1回

※使用薬剤, 時期, 濃度, 量, 方法については, 品種ごとにラベルを熟読の上使用する

<農薬登録内容が変更されている場合があるので, 農薬使用前には表示ラベルをしっかりと確認しましょう!>